

阿蘇企画官が資料 35-1(「宇宙の日」記念行事)を4分程で説明した後、6分余りの質疑応答があった。

青江委員長代理:これは昨年との関係だけ見るとグッと増えて¹ますよネ。そうでもないのか。

阿蘇企画官:ええと、昨年、

青江委員長代理:小学生が増えて、

阿蘇企画官:はい、昨年がですネ、20,167、

青江委員長代理:少し長い時間を取っての傾向²はどんな感じですか。

阿蘇企画官:募集期間は、ほぼ、今年も4月14日から7月31日迄だったんですが、例年、

青江委員長代理:応募数。

阿蘇企画官:はい?

青江委員長代理:応募数。応募数がネ、傾向として見ると、まあ、少しではあるけれどズーッと漸増傾向とかネ、どんな風に思っとけば良いんですか。

阿蘇企画官:そうですネ、大体あの一、...平成18年度が24,780で、それから例えば少なかった年では平成16年度が16,081と云う事ですネ、大体2万点前後の応募作品と云う事で御座います。ただあの、全国の82館ですネ、協力を頂いて、夫々応募の宣伝をして頂いて、募集をして貰っ

¹ 「作文」の「小学生」の欄だけを見た様である。

² 応募数の話題で「傾向」と質問されれば、数年間の傾向と解釈出来るが、募集期間内での応募傾向と解釈したようだ。

【議事(1)】平成20年度「宇宙の日」記念行事の実施状況についてですネ、夫々の博物館科学館毎にですネ、受賞作品を決めているんですけども、中々経費や人件費、マンパワーの問題ですネ、82館を更に増やして行くとかですネ、云う事は中々難しい状況にはなっています。

池上:今の数の話で、作文は小学生が非常に伸びて居て、で、中学生が減ってますよネ。

阿蘇企画官:はい。

池上:で、これは何か理由があるのかって。去年から見るとISSの話とか、或いは「かくや」の話があったんですよ。寧ろ小学生の方が関心があるって云う様に読むのかしら。

阿蘇企画官:ウンとですネ。...無言...特には無いですが、傾向としてですネ、学校の授業と言いますか、そう云うので集団的な、各学校単位ですネ、募集して来てくれる処³があるんですが、全体の傾向として絵画は割と敷居が低くて、作文になると中々応募者数が少ないと云う傾向は御座いますけれども、ただ、済みません、一寸此の、昨年と比べて、丁度小中学生の処が逆転した様な形になってはいますが、其の事について未だ分析は出来て居りませんが、此れ迄の傾向からするとですネ、大体小学生の方がですネ、作文

³ 作文と云うのは学校の先生が引っ張らないと動かない企画の様な気がする。子供たちが宇宙をテーマにした文章を書く程には、宇宙のイメージが出来ていないと思う。宇宙の行事に参加した感想文であれば、具体的なイメージが出来上がっているので、敷居を下げられるかも知れない。小職も、「何がテーマでも良いから作文を書いてこい。」と云う宿題が一番嫌いだった。

としては応募者数が多くて、中学生の方が少ないと云う事で、過去 3 年間位は此れまでと比べて中学生の方が多かったと云う傾向としては現れて居ります。

青江委員長代理:あの、例えばアメリカなんかは斯う云ったもよう⁴は無い⁴んですかね。と言いますのはネ、日本の中学生は宇宙に対して関心が低いのか、それとも並みなのか、此の数字でも高いのか、作文書いたり絵を描いたりネ、何かしようと云うアレが、此の、何となく低い様な感じがするんだけれどもネ。

阿蘇企画官:済みません、アメリカで此の様な事が行われて...あの、今度 12 月に開かれる APRSAF などでは、水ロケットのコンテストって云うのは毎年やっていますけれども、一寸済みません、此の作文絵画コンテストみたいなものが開かれてるかどうか一寸済みませんです。

青江委員長代理:と言うのは、斯う云ったのをやるとネ、もっと沢山の人が、⁵沢山の坊や達が応募してくれると良いネエ⁵と。

⁴ NASA が主催するスペース・キャンプは人気がありそうな企画である。

⁵ 「もっと大勢が参加してくれたら(私は)嬉しい。」と云う意味なのだろうが、「良い」と言われるとコメントしたくなる。作文の参加者数に比例して宇宙予算が変動する訳でもないし、作文に応募した人の中から宇宙関連の技術者が育つ訳でもない。其れ程大仰に取り上げる問題ではないと思う。其れより、工学離れが著しい中で、大学の研究室で、宇宙は確り希望者を増やしていると云う事の方が大切だろう。

【議事(1)】平成 20 年度「宇宙の日」記念行事の実施状況について

其れでどうも、応募者数と云うのも、まあ所謂、大体おんなじ位でズーッと来て居る。何か、斯う、一工夫二工夫あっても良いかネエと。

阿蘇企画官:と云う事で今年は、

青江委員長代理:ウン、別に、ですけどネ。

田中審議官:一般的には、学校が何らかの活動で取り上げて貰うと、圧倒的にガーンと斯う跳ね上がるって云うのが一般的な傾向として有りまして、授業とかの中で先生が取り上げ、例えば、カギ(?)週間なんかの標語なんかですネ、学校の授業で「じゃあ皆で応募しよう」と云うと途端に其処の学校だけ物凄い数が出て来たりしますので、其れが多分一番大きな効果(?)になるかと思えますけど。

青江委員長代理:折角文科省なんだからネ、初等教育局と云うのがあるんでネ、お隣にネ。そう云った処に結構協力を、所謂各教育レベルの教育委員会に協力を求めるみたいな事はって云ったら、「いやいや宇宙だけを特別扱いにする訳にはいかんのだ。⁶」と、云う事なんだけれども、特別扱いして上げても良いんじゃないかと云う気もする⁷んだけれどもネエ。

阿蘇企画官:あの、全国的と云う事ではないんですが、今回の開催に当たりましては、阿南市の教育委員会にもご協力頂い

⁶ 言葉の上で其の様に表現するが、本心は「協力した処で何の見返りがあるのだ。」と云う処かも知れない。

⁷ 特別扱いして貰えば「宇宙」は「教育」に対しての重荷が増える。其れ迄して「宇宙」が得るものは何か。思い付かない。

て居ります。

青江委員長代理:あの、シンコウリツ(?)ネ。だけど斯う、面的に各教育委員会がですネ、あと少し宇宙に対して関心を持ってくれて、其れでさっき中村(?)君が言った様に、授業の中に宇宙と云うものが入って行くと、此れは多分随分違って来るでしょうネ。そう云う風になるところ、裾野がグッと広がる。ところが、宇宙だけを特別扱い、ダメよ。と云う非常に伝統的なものの考え方がある。どうにかならんかネエと云う。

まあ、

阿蘇企画官:済みません、一寸、

青江委員長代理:文化なのかナァと思いますネエ。

宜しゅう御座いますか。はい、じゃあもう一つ、(以下省略)